

目をこらして (17)



幼稚園のすぐそばにある林試の森。そこは『森の幼稚園』。ユーカリの木の所で、やっくんが大発見をした。

「この葉っぱは見て！ ほらみんなちがうよ！」

やっくんの手には、三枚の葉っぱ。

一枚は裏も表も緑色。

一枚は裏も表も赤色。

そしてもう一枚は裏が緑色で表が赤色。

微妙に色の違う三枚の葉っぱ。

「ン？ ン？」と初めは発見の意味がつかめなかった私。

やっくんの説明を聞いて、そうか、そういうことか、と分

かった時「オオ！」と感動がじんわりと押し寄せてきた。

他の子どもたちにもやっくんの大発見を伝えると「へ

え、すごい！」とみんなびつくり。

ユーカリの木の所には、一面のユーカリの葉。

その中に、やっくんが見つけたような三種類の葉っぱが

きつとある。

見つけてみたい。そんな熱い思いがわいてきて、ユーカ

リの木の所には確かに活気づいていったのだった。





耳をすまして

どんぐり山のふもとで、不思議な実を見つけた。

小さな玉が沢山ついていて、手で触れるとパラパラとくだけていく。

「見て見て！」とその実を持ってゆいこちゃんたちがやってきた。「ほらね。こうやってこするとね」と言って自分の白い靴にその実をこすりつける。

「ほら、緑になったでしょ」実がくだけて細かな緑色の粉になり、それが白い靴の表面について緑色の靴になったように見えるのだった。

「でもね」と言ってバツと手ではらうと、緑の粉はきれいにはらわれて靴は元通りの白色に戻っていた。それはまるで魔法のようだった。

面白い実だとは私も思っていた。けれども、子どもたちは、その実の面白さを遊びにして楽しんでいる。

不思議を不思議のままでおかず、面白さを面白さのままでおかず、生かして遊びにしてしまう。

子どもといて、だからいつも心が新しくなる。

絵と文 宮里暁美 (目黒区立ふどう幼稚園)

